

COC+事業報告書

2017 COC+ REPORT

地域創生に応える実践力養成
ひょうご神戸プラットフォーム事業

2017 COC+ REPORT

地域創生に応える実践力養成
ひょうご神戸プラットフォーム事業

INDEX

COC+事業とは?	02
1 事業概要	
事業概要	03
実施体制	04-05
教育プログラムについて	06-07
2 活動報告	
事業全体の活動報告	08-09
歴史と文化領域	10-11
自然と環境領域	12-13
子育て高齢化対策領域	14-15
安心安全な地域社会領域	16-17
イノベーション領域	18-19
3 地元定着に関する取組	
地元定着に向けた活動	20-21
4 雇用創出に関する取組	
神戸大学篠山市農村イノベーションラボ	22-23
5 活動記録	24-25

CO⁺C+事業とは?

地域で活躍する人材の育成や大学を核とした地域産業の活性化、地方への人口集積等の観点から、大学が果たすべき役割には、きわめて大きな期待が寄せられています。

文部科学省では、平成25年より、「地(知)の拠点整備事業(COC)」を公募し、「地域のための大学」として各大学の強みを生かしつつ、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできました。

平成27年からは、「地方創生」を推進する観点から、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」として、全国から42件の事業が採択されました。本事業は、COC事業を発展させて、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。

なお、COCとは、「Center of Community」の略です。



地(知)の拠点整備事業

大学等が自治体等と連携し、地域を志向した「教育・研究・地域貢献活動」を一体的に全学的に進める取組を推進

- 兵庫県立大学…ひょうご・地(知)の五国豊穡イニシアティブ
- 神戸市看護大学…地域住民と共に学び、共に創るコミュニティケアの拠点づくり
- 園田学園女子大学…〈地域〉と〈大学〉をつなぐ 経験値教育プログラム

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業

地方創生の推進・若年の東京一極集中を解消するため、地域企業等とのマッチングや若者の定着強化を図る大学群、自治体、地域の企業等との連携を必須とし、地域を担う人材を育成するための教育改革を行う取組を支援

地域創生に定める実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム事業協働機関

大学(神戸大学、兵庫県立大学、神戸市看護大学、園田学園女子大学)
 行政(兵庫県、神戸市)
 企業等(神戸商工会議所、兵庫県経営者協会、兵庫工業会、神戸新聞社)

事業概要

1. 地域創生に定める実践力養成ひょうご神戸プラットフォームとは?

文部科学省の公募事業である、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に、兵庫県から、神戸大学が中心となって申請した「地方創生に定める実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」が採択されました。本事業には、神戸大学を含め、県内で平成25年度よりCOC事業を推進している、兵庫県立大学、神戸市看護大学、園田学園女子大学の3つの大学と、自治体から、兵庫県、神戸市、産業界から、神戸商工会議所、兵庫県経営者協会、兵庫工業会、神戸新聞社が参画しています。産学官の事業協働機関(ひょうご神戸プラットフォーム協議会)が一体となって地域の課題解決に資する人材育成と若者の地元定着を目指します。

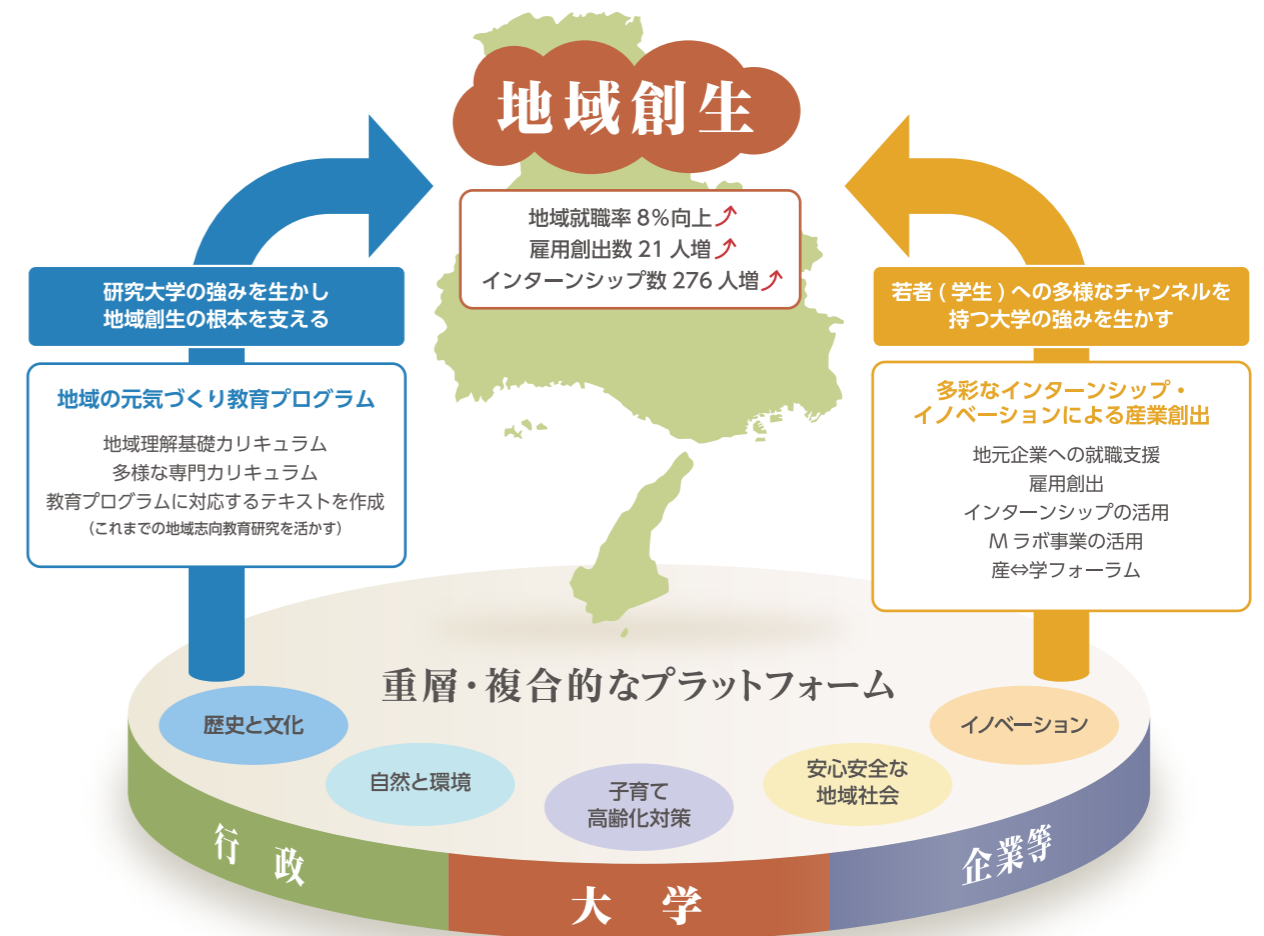
2. 事業のポイント

ポイント1 5つの領域とプラットフォームの構築

神戸大学及び県内COC大学等がプラットフォームを構築し、各大学がこれまで培ってきた地域社会形成のための教育研究の成果を持ち寄ります。これらを広く波及させるため、「歴史と文化」「自然と環境」「子育て高齢化対策」「安心安全な地域社会」「イノベーション」の領域ごとに共同してテキストを作成し、教育プログラムを開発します。自治体、企業等の事業協働機関は、教育プログラム実施に協力します。

ポイント2 若者の地元定着

事業協働機関と連携し、様々なインターンシッププログラム等を通して学生が地元企業とふれあえます。新しく開発する地域志向科目の学びを通して、学生は地域への理解を深め、地元で暮らすこと、働くことの魅力を発見します。



実施体制

1.事業の実施体制

全ての事業協働機関が参加する「ひょうご神戸プラットフォーム協議会」を平成28年2月24日付けで設置しました。平成29年7月18日に第3回目の協議会を開催し、29年度の事業方針や年度計画、予算に関する検討を行いました。また、領域ごとの教育プログラムの開発に対応するため、領域毎に大学間会議等を開催し、関係教員と実質的な検討を行っています。

また、事業実施のために、統括コーディネーター、副統括コーディネーター、領域コーディネーターを神戸大学及び兵庫県立大学に配置し、事業の推進を図っています。

ひょうご神戸プラットフォーム



2.領域ごとの教育プログラム開発体制

地域課題を「歴史と文化」、「自然と環境」、「子育て高齢化対策」、「安心安全な地域社会」、「イノベーション」の5領域に分け、領域ごとにコーディネーターをおいて事業に取り組んでいます。神戸大学においては各研究科地域連携センター等において領域ごとの教育プログラムの実施やテキストの開発を行っており、学内の多数の教職員とともに進めています。

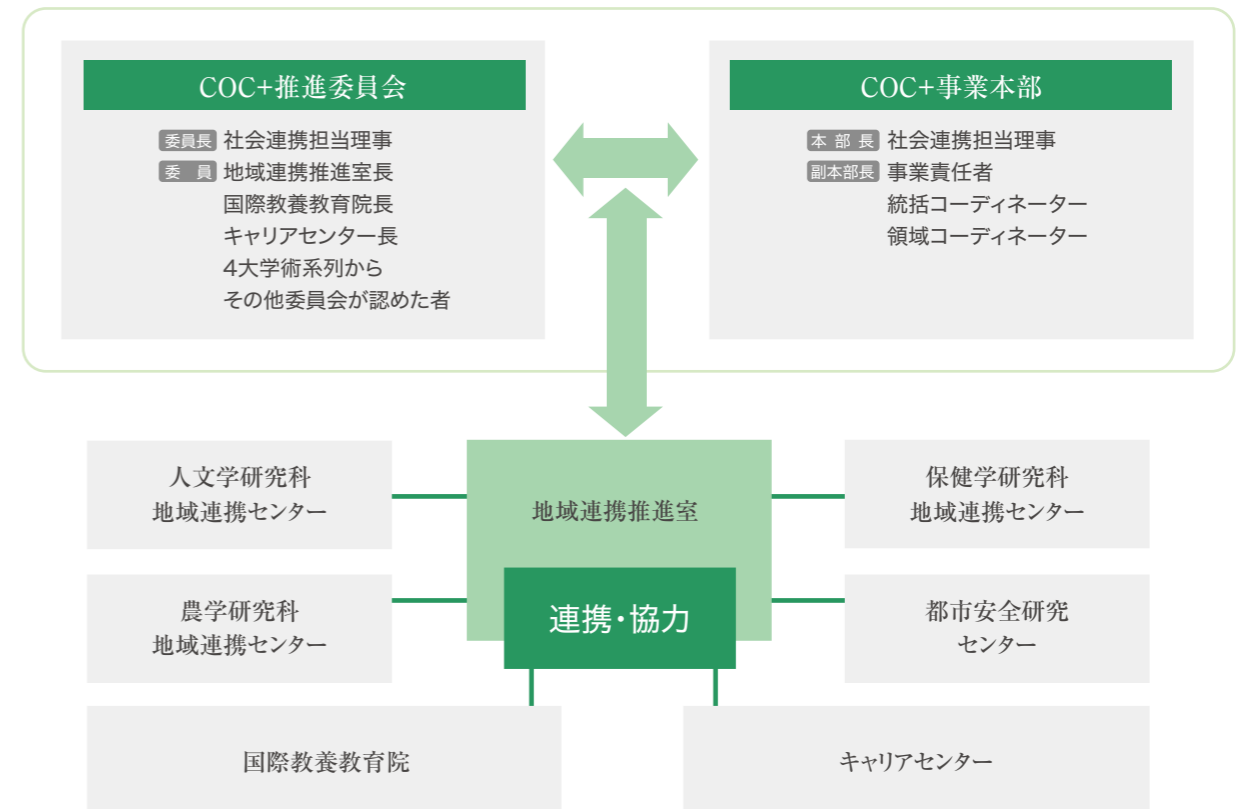


統括コーディネーター	佐々木 和子 (平成28年1月1日～)
副統括コーディネーター (イノベーション領域兼務)	竹元 秀樹 (平成28年1月20日～平成29年5月31日) 頭師 暢秀 (平成29年6月1日～平成30年3月31日)
歴史と文化領域コーディネーター	村井 良介 (平成28年1月1日～5月31日) 木村 修二 (平成28年7月17日～平成30年3月31日)
自然と環境領域コーディネーター	木原 弘恵 (平成28年1月1日～平成30年3月31日)
子育て高齢化対策領域コーディネーター	藤本 由香里 (平成28年2月1日～)
安心安全な地域社会領域コーディネーター	小川 まり子 (平成28年4月1日～平成29年9月30日) 山地 久美子 (平成29年11月1日～)(学術研究員)

3.神戸大学の実施体制

学長のリーダーシップの下、社会連携担当理事を本部長、事業責任者を副本部長とする「COC+事業本部」を平成28年5月10日に設置しました。本部には統括及び領域コーディネーターを配置し、月1～2回程度コーディネーターミーティングを開催しています。また、教育担当副学長や、キャリアセンター長、学部の教員が委員となるCOC+推進委員会を設置し、事業の全学的展開が可能となる体制を整備しました。

なお、具体的な事業の推進については、地域連携推進室を中心に、人文学、保健学、農学の各研究科地域連携センターや都市安全研究センター、国際教養教育院、キャリアセンターと協力しながら進めています。



4.PDCAサイクル

統括コーディネーターを中心に月に1度、取組点検のための自己評価会議を開催しています。学期末には自己評価をまとめ、事業本部長に報告しています。その他、各事業協働機関を訪問し、進捗を報告し、フィードバックを受け、事業に反映しています。

平成29年6月に外部評価委員会を開催し、外部評価者から事業全体の評価を受けました。外部評価を通じた客観的評価を行うことにより、事業の自主的な運営の見直し、改善を促し、もって事業の質の改善・向上、事業運営の効率化及び透明性の確保につなげることを目的としています。

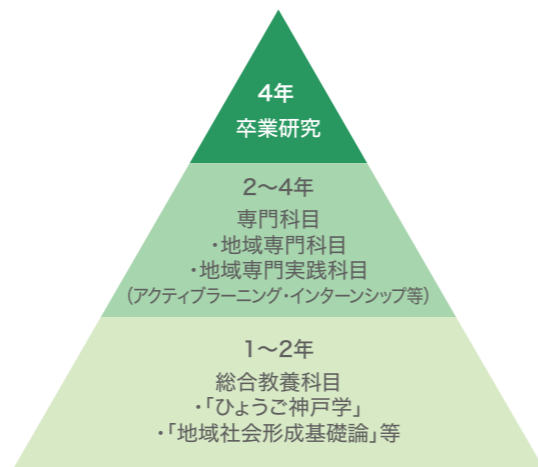
さらに、事業3年目となる本年度は、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会による中間評価が行われ、本事業は「A」という評価を受けました。



教育プログラム

1.教育プログラムの特徴

神戸大学では地域を志向した全学共通授業科目や専門科目が多数開講されています。これを「歴史と文化」「自然と環境」「子育て・高齢化対策」「安心安全な地域社会」「イノベーション」の5つの領域を中心に整理し、体系化しています。さらに、全学共通授業科目として、領域横断的な「ひょうご神戸学」「地域社会形成基礎論」を新たに開講し、地域社会に対する総合的な理解の上に専門性を身につけることのできる教育プログラムを構築しています。



2.養成される人材(卒業後の学生のイメージ)

本事業では、次の六つの要素を備えた人材の養成を目指します。①ふるさと意識に満ちた人材、②地域コミュニティの活性化に貢献できる人材、③次世代を担う国際感覚にあふれた科学技術人材・グローバル人材、④地域の魅力を高めイノベーションの創出に意欲的な人材、⑤防災マインドを備えた人材、⑥協調性、コミュニケーション能力、耐力を備えた人材。

また、地域に対する総合的な理解を身につけることで、どのような職に就き、どこに住んだとしても、地域住民の一員として地域課題に取り組める人材を養成します。

3.教育プログラム開発に向けた活動

■ 地域志向科目のためのテキスト作成

本事業の成果の大きな柱として、5つの領域ごとに、地域課題や地域づくりについて学ぶための、初学者向けテキストである「地域づくりの基礎知識」シリーズを作成・編集しています。

本シリーズは、神戸大学・兵庫県立大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学のCOC+事業に参加する大学が、地域住民や自治体、企業などと協力しながら展開してきた取組を集約し、これまでの地域志向型教育研究の成果を生かしたものとなっています。また5つの領域が設定するテーマを体系的に分析することで、初学者や地域づくりに実際に携わる方々にも分かりやすいように構成しています。授業や各フィールドで本テキストを活用することにより、読者がさらに深く地域社会を理解するための良きガイドとなるよう目指しています。

平成30年1月には「地域歴史遺産と現代社会」を、同年3月には「子育てと高齢化対策」を、神戸大学出版会より刊行しました。今後は地域志向科目内(全学共通授業科目と専門科目)での活用と、一般読者の地域活動の際の利用も想定し、計5冊のシリーズとして刊行する予定です。

シリーズ地域づくりの基礎知識

『地域歴史遺産と現代社会』 奥村弘・村井良介・木村修二編

地域の歴史や文化を社会的に活用するにはどうすればいいのか―いま日本各地で取り組まれている大きな課題でもある。神戸大学では、阪神・淡路大震災を契機に歴史資料の保全や、自治体・地域団体とともに地域の歴史と文化を守り育てる活動を実践してきた。本書はその具体例を示しながら、魅力ある「地域」と「ひと」を創り出すヒントを紹介していく。

『子育て支援と高齢者福祉』 高田哲・藤本由香里編

高まる医療介護ニーズへの対応と出産・育児に希望を持てる社会づくりに対して、本当に必要な支援とは何かを地域の現状から見直す。



■ 全学共通授業科目「ひょうご神戸学」/「地域社会形成基礎論」の開講

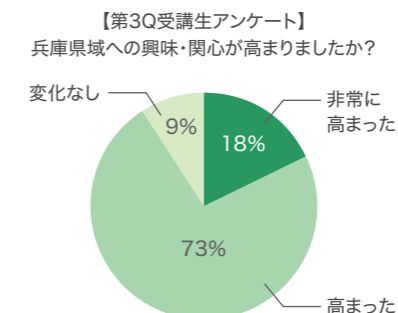
神戸大学では、平成29年度後期より、全学共通授業科目として「ひょうご神戸学」(月曜5限)と「地域社会形成基礎論」(木曜5限)の2科目を、それぞれ第3・第4クォーターで開講しました。新規科目の開講により地域志向科目の履修者を増加させるとともに、兵庫県域を中心とした地域についての基礎的な知識の習得を目指しています。なお、これら2科目は平成30年度から第2・第3・第4クォーターで開講します。平成30年度以降入学者は「総合教養科目」として、平成29年度以前入学者は「総合科目I」として履修・単位取得することが可能となっています。

● ひょうご神戸学

この科目は、地元兵庫・神戸で地域の担い手となる人材育成を目的とし、兵庫・神戸地域に関する基礎的な知識について、地方自治、経済、地理、歴史、戦災や災害などの観点から講義を行うものです。地域の現状と課題を多面的に学習できるように、各分野の専門家や事業協働機関である兵庫県・神戸市・神戸新聞社からも講師を招きオムニバス形式で講義をしています。また、講義の最終回では、地元兵庫県や神戸市の地域課題解決に向けたワークショップも行い、授業での学びの振り返りと今後の実践について受講者全員で検討しています。



- <授業構成>(順番は入れ替わる場合があります)
- 1 兵庫県・神戸市の歴史(古代・中世)
 - 2 兵庫県・神戸市の歴史(近世・近代)
 - 3 兵庫県の災害と戦災
 - 4 兵庫県の現在
 - 5 神戸市の現状と未来の姿
 - 6 兵庫県・神戸市の地理
 - 7 経済から見る兵庫・神戸のあゆみ
 - 8 兵庫県の地域課題 地元メディアの視点から

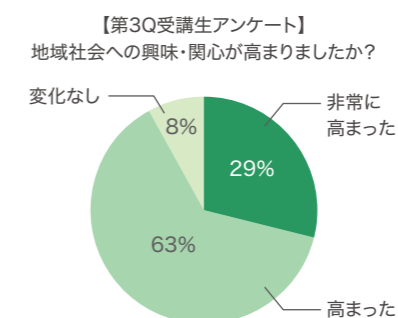


● 地域社会形成基礎論

この科目は、現在地域が直面している課題について多角的に理解し、地域社会形成の意義やそのための取組についての知識を得ることを目的とし、経済・環境・福祉・歴史・法などの各分野から地域社会形成について講義を行うものです。地域を考えるための多様な視角を学習できるように、各研究科地域連携センターや都市安全研究センターの教員等が講師となってオムニバス形式で講義をしています。授業の中では教員と受講生とによる質疑応答の時間を設け、地域課題解決のための実践的なアプローチを学ぶ場づくりを意識しています。



- <授業構成>(順番は入れ替わる場合があります)
- 1 現代日本の地域課題
 - 2 地域経済の課題と地域づくり
 - 3 地域医療・福祉の課題
 - 4 地域歴史文化の課題
 - 5 自然と共生した地域づくりにおける課題
 - 6 災害と地域
 - 7 地域と法・制度
 - 8 地域づくり、地域再生の取り組みとボランティア・NPO



■ 教育プログラムの体系化にむけて

本年度、各学部で開講されている専門科目の中から、191科目について、地域志向科目の指定を行いました。今後は、さらに、内容を精査し、上記の新規開講科目と合わせプログラムの体系化を図り、学生が将来、地域社会でどのような職に就き、あるいは地域の一人としてどのような活動を行いたいかに応じて、履修モデルを作成し、提案していく予定です。

事業全体の活動報告

1.平成29年度活動概況

COC+事業本部として、①事業推進のための各種会議の開催、②外部評価委員会の開催及び中間評価への対応、③FDの実施、④雇用創出、地元就職支援に向けた活動、⑤情報発信を行いました。今年度は特に、FD活動を通して、事業の学内周知に努めたほか、神戸大学・兵庫県立大学による地元就職支援のための連絡会や地元企業特集の冊子配布、地方の魅力を発見するバスツアーなど地元定着に向けた取組を行いました。

2.活動詳細

1 事業推進のための各種会議の開催

ひょうご神戸プラットフォーム協議会

①平成28年度事業報告及び平成29年度事業計画、②外部評価及び中間評価、③平成28年度決算及び平成29年度予算、④フォローアップに関するアンケートの各項目について協議を行いました。意見交換では、学生に対する事業の周知徹底や、インターンシップを行う上での大学のサポートの重要性、第2新卒者へのアプローチの有効性とその課題等について議論しました。

開催日 平成29年7月18日 場所 神戸大学農学研究科A棟3階大会議室

COC+推進委員会

全学的な観点から事業実施にあたっての協議を行いました。

開催日 平成30年2月13日 場所 神戸大学学術・産業イノベーション創造本部大会議室

コーディネーターミーティング

副本部長とコーディネーターが集まり、事業の進捗確認や、地域の要望に対する対応・検討を行いました。今年度は特に、地域志向科目の指定及びテキストの作成について重点的に検討しました。これにより、副本部長や統括コーディネーターが方向性を示し、事業の全学的な統一を図りました。

開催回数 年16回 場所 神戸大学学術・産業イノベーション創造本部小会議室



2 外部評価委員会の開催及び中間評価への対応

外部評価委員会

第三者の立場から客観的に点検・評価し、事業の改善に努め、質の向上につなげるため外部評価委員会を設置しました。

当日は、評価委員として、藤本清二郎氏(和歌山大学名誉教授 元副学長・理事)、小田一彦氏(京都府農業農村創生センター会長)、鹿島建設(株)社友の安藤進氏の3名の委員が出席し、事業概要の説明の後、意見交換を行いました。

開催日 平成29年6月29日 場所 神戸大学学術産業イノベーション創造本部大会議室

中間評価

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会による中間評価が行われ、事業協働機関から5名がヒアリングに出席しました。

ヒアリング実施日 平成29年10月24日

3 FDの実施

各学部の教職員にむけて、COC+事業のFD活動を実施し、事業への理解を深め、今後の展開などについて意見交換を行いました。これらの活動を通じて、各学部での地域志向科目指定等への理解が深まり、学生の地域理解へつなげることができました。また、地域をフィールドに教育研究に携わる教職員に対し、その質を向上させることを目的の一つに、「イノベーション人材育成」をテーマとしたCOC+シンポジウムを実施しました。

開催実績	平成29年 6月16日	理学研究科	平成29年10月13日	システム情報学研究科
	平成29年 6月21日	海事科学研究科	平成29年11月15日	法学研究科、経済学研究科
	平成29年 8月 4日	農学研究科	平成29年12月15日	国際文化学研究科
	平成29年 9月 6日	人文学研究科	平成30年 1月17日	経営学研究科、保健学研究科
	平成29年10月 6日	工学研究科	平成30年 2月16日	人間発達環境学研究科



4 雇用創出、地元就職支援に向けた活動

神戸大学・兵庫県立大学 地元就職支援のための連絡会

COC+参加大学のうち、学生数の多い神戸大学と兵庫県立大学が、学生達に地元就職支援をはじめとするキャリア支援を行うことを目的に、連絡会を行いました。参加者は、神戸大学キャリアセンター教員、兵庫県立大学キャリアデザイン担当教員、就職支援アドバイザー、統括コーディネーター、副統括コーディネーターなどです。

連絡会では、これまで両大学が取り組んできた事業について相互に紹介したあと、学生達の視野を広げ、地元企業に目を向けさせるためにはどうしたら良いかなどについて、意見交換を行いました。

開催日 平成30年2月6日 場所 兵庫県立大学

香寺ハーブガーデン訪問

地域で働く卒業生の声を聞くため、姫路市香寺町にある香寺ハーブガーデンを訪問しました。昨年、農学部の学生が、大学の講義で講師として来られた同社社長と出会い、就職を決めた事例があったためです。

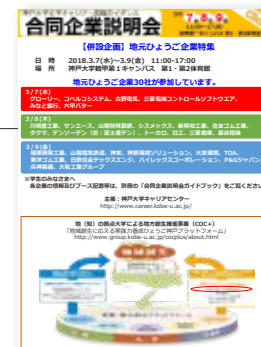
同ガーデンは、農薬や除草剤を使用せずハーブを育て、独自の技術を使い、ハーブティやエッセンシャルオイルを開発、販売している企業です。また、廃校になった夢前町の小学校を改装し、工場や農家レストランに活用しています。地元の協力を得て、耕作放棄地でハーブ栽培を行うなど、地域活性にも取り組んでいます。栽培から、商品開発、販売など、製品が消費者に届くところまで、一貫して関わることができると、元氣な声を聞くことができました。

開催日 平成29年10月12日 訪問先 香寺ハーブガーデン(姫路市香寺町)

学内合同企業説明会

合同企業説明会において、併設企画として「地元ひょうご企業特集」を実施し、県内企業30社が参加しました。

開催日 平成30年3月7~9日 場所 神戸大学鶴甲第一キャンパス 第1・2体育館



講演会「地域を豊かにする相互扶助が生まれるビジネスとは」

前半では、兵庫県内の地域住民や行政とともに大学が、歴史と文化を活かしたまちづくりをおこなった事例、篠山市の農村部へのU・ターン時の現実的な課題解決を行政や大学が連携して支援している篠山イノベーターズスクールの取組、観光や地域連携をキーワードに淡路島において農業に取り組みながら地域を活性化のための新規事業を立ち上げた企業の実例について報告がありました。後半の学生発表では、学生の視点からとらえた現実の課題を解決するために、若者と高齢者がともに活躍できるアイデアが提起されました。ビジネスの現場のみならず、現実の地域社会が抱える課題に向き合うためにも、「相互扶助」というキーワードが有効であることが確認された意義深い会となりました。

開催日 平成29年11月19日 場所 神戸大学百年記念会館六甲ホール 参加人数 30名



5 情報発信

ひょうご神戸プラットフォーム 第3回COC+シンポジウム

第3回目のテーマは、「地域で育むイノベーション人材～新しい挑戦～」。大学や自治体などで取り組んでいるイノベーション人材育成の動きを共有し、地域での新たな人材育成の展開を考えようと企画しました。

第1部では、神戸市医療・新産業本部から、「神戸をもっと面白い街にするには～革新的な起業・創業支援の展開～」をテーマに、オープンガバナンスやスタートアップ育成支援などについて、本学からは、現在行っているイノベーション人材育成の取組の報告がありました。さらに、兵庫県立大学から、地元企業の課題を解決する基礎/専門セミナーの取組や地域キャリア論などの報告がありました。第2部では、地域で活動する学生団体の発表がありました。

会場からは、イノベーション人材とはどのようなスキルやマインドセットを持った人材か、イノベーション人材を支える周りの環境や仕組みづくりが大切ではないかとの質問があり、活発な意見交換を行いました。

開催日 平成29年12月22日 場所 神戸大学瀧川記念学術交流会館 参加人数 50名



歴史と文化領域

1. 領域が目指す教育プログラム、人材育成

本領域では、歴史と文化の側面から、地域の歴史性や文化の多様性に関する知識を持ち、地域に貢献できる人材を育成するための教育プログラムや、その実施のためのプラットフォームの整備を進めています。こうした知識を持った人材が、地域自治体の社会教育部門(学芸員・司書・公民館職員を含む)へ就職・配属されることが期待されます。また地域づくりを担うNPOなどの諸団体職員やコンサルタント会社へ就職する道も開けると考えています。

2. 平成29年度活動概況

本年度の活動は、人文学研究科地域連携センターの諸活動と密接にリンクする形で、展開してきました。なかでもCOC+事業と密接に関わった事業は次のものが挙げられます。(1) 文学部・大学院人文学研究科における学生向け・市民向け地域志向教育プログラム(地域歴史遺産保全活用基礎論A・B、地域歴史遺産活用演習、まちづくり地域歴史遺産活用講座、まちづくり地域歴史遺産活用講座オプションプログラム古文書解読初級講座)の開講、(2) 『地域歴史遺産と現代社会』発行に向けての活動、(3) 歴史文化をめぐる地域連携協議会の開催、(4) 兵庫県文化遺産防災研修会の開催、および(5) 大学連携事業からなっています。

3. 活動詳細

1 文学部・大学院人文学研究科における学生向け・市民向け地域志向教育プログラムの開講

① 地域歴史遺産保全活用基礎論A・B

本講座は地域歴史遺産の保全・活用のための基礎的講義をリレー形式で行うもので、基礎論Aを第1Q・第2Q(月曜1限)に、基礎論Bを第3Q・第4Q(金曜1限)にそれぞれ開講しました。

② 地域歴史遺産活用演習

本講座は、夏期と冬期の2度、集中講義の形で開講し、受講者が歴史資料(古文書)に直接触れ、整理作業を行うことで、その貴重さや保全の重要性を学ぶものです。地元住民とともに地域文献史料の活用を図る専門的知識を得るため、古文書が所在する現地へ出向き合宿形式で行いました。今年度は8月30日～9月1日(篠山市、31名参加)、冬期は2月15～16日(三木市、38名参加)の2回、実施しました。

③ まちづくり地域歴史遺産活用講座

本講座は、年に2回、大学と地域とで開催するもので、地域開催としては、5月21日、朝来市埋蔵文化財センター「古代あさご館」(主催朝来市)で開催し、24名の参加を得ました。平成30年3月3日(土)にも、三木市立みき歴史資料館において、地域開催の講座(主催三木市教育委員会)を予定しています。



④ まちづくり地域歴史遺産活用講座オプションプログラム古文書解読初級講座

平成29年度まちづくり地域歴史遺産活用講座オプションプログラムとして、古文書解読初級講座を開催しました(10月31日、11月14日、21日、28日、於:文学部学生ホール、講師:河島裕子氏)。定員を超える21名が受講し、アンケートの回答でも古文書の学習方法を初歩から学ぶことができたなど概ね好評でした。



2 「地域歴史遺産と現代社会」の刊行

地域遺産の活用により、地域の歴史・文化の継承や、歴史・文化を生かしたまちづくりについて学生や市民が学べるよう、「地域づくりの基礎知識シリーズ」の第1弾として、「地域歴史遺産と現代社会」を平成30年1月20日に刊行しました。今後は、本書を「地域社会形成基礎論」や「地域歴史遺産保全活用基礎論」などのテキストや参考書に活用する予定です。

3 歴史文化をめぐる地域連携協議会の開催

「住民主体の(地域史づくり)一平成大合併後の状況の中で一」をテーマとし、大学・行政・住民それぞれの立場から報告が行われました。第1部の活動報告では、山内順子氏([丹波市]竹田歴史資料室研究員)「地域史講座『歴史』の取り組みについて」、藤井保雄氏([朝来市]竹田城跡保存会)「竹田城跡保存会の活動について」、上谷昭夫氏(鶴野平和祈念の碑苑保存会)「鶴野飛行場の跡地をめぐる活動について」の3本の報告が行われました。続いて、午後の第2部では、木村修二によるテーマ趣旨説明のあと、森下徹氏(和泉市史教育委員会)「和泉市史における合同調査と地域叙述編」、西村慎太郎氏(人間文化研究機構国文学研究資料館准教授)「地域史づくりの射程—原子力災害とダム建設—」、前田結城(人文学研究科学術研究員)「『棚原モデル』の展開と課題」、松岡弘之氏(尼崎市立地域研究史料館)「『学ぶ』市史から『調べる』市史へ—たどる調べる尼崎の歴史』をめくって—」の4報告が行われ、つづいて、大槻守氏(香寺町史研究室)「香寺歴史研究会の活動について」、竹本敬市氏(佐用郡地域史研究会)「佐用郡地域史研究会の活動について」という2つのコメントがなされました。全体討論では、地域史づくりの具体的な方法についての質問から、都市周辺地域だけではなく、大都市内や大都市近郊地域でも、人口減や自治体消滅の危機意識のため、地域史づくりが進められるケースがあるといった意見などがフロアより寄せられ、報告者とともにディスカッションしました。

開催日 平成30年1月28日(日) 場所 神戸大学瀧川記念学術交流会館 参加人数 94名



4 兵庫県文化遺産防災研修会の開催

地震や風水害などの自然災害から地域の文化財や展示物を守るため、兵庫県内の文化財担当職員や博物館・資料館学芸員らが防災対策を話し合い、大規模災害発生時の一時保管や修復などの相互支援体制の構築に向け、「兵庫県文化遺産防災研修会」を開催しました。この研修会は、今後も県内各地を巡回して、開催していく予定です。

キックオフ研修会

開催日 平成29年7月5日(水) 場所 神戸大学農学研究科 参加人数 57名

研修会in播磨西

開催日 平成29年11月28日(火) 場所 姫路市日本城郭研究センター 参加人数 20名



5 大学連携事業

園田学園女子大学と連携して、地域歴史文化遺産を活用した地域づくり支援(旧美方町収集史料の基礎調査)を行いました。本取組は、兵庫県香美町小代地区に設置された園田学園女子大学香美町サテライトスタジオを活用し、同所に保管されている旧美方町史編纂関係資料(香美町教育委員会所有)の調査・整理を行い、現地での地域づくり活動への活用を図ろうとするものです。6月5日には、同スタジオの開所式が現地で開催され、学生とコーディネーターが参加し、地元の方々と名刺交換を行うなど交流を図りました。その後、7月29～30日、8月25～27日、11月3～4日、12月26～7日に、現地調査を行い、同資料群の整理作業を中心に事業を進めました。その結果、932件の資料を確認し、概要目録を作成しました。3月18日には香美町小代地域局で町民向けの成果報告会を開催しました。

園田学園女子大学COC+シンポジウムへの参加

平成29年7月22日(土)、園田学園女子大学において、大学COC+シンポジウム「地域歴史遺産としての『営みの記憶』—災害復興の現場から—」が開催され、パネラーとして神戸大学から松下正和が「大規模自然災害時における被災歴史資料保全活動の現状と課題」と題する報告を行いました。



自然と環境領域

1. 領域が目指す教育プログラム、人材育成

本領域では、農学部が実施する教育プログラムを通じて、中山間地域等で自然環境を利用しながら地域の活性化支援へと繋げたり、培った自然環境や農業に関する専門知識を活かして、住民・行政・NPO等と大学をつなぐことができる人材の育成を目指しています。

同時に、6次産業化に関する取組、および病害対抗性品種や病害診断法などの技術開発を進めつつ、農業協同組合、農家・農業法人やアグリビジネス関連の企業等において、新たな雇用を創出できるような取組を進めます。

2. 平成29年度活動概況

本領域では、農学研究科地域連携センターの活動と関連させながら、地域人材育成を中心とする事業を展開してきました。

なかでも昨年度同様、専門教育(理論)と、食と農の現場での実践とを統合し、教育の質を高めることを目指す、農学部の教育プログラムの充実に力を注いできました。その教育プログラムのうち、農村の団体や企業を受入先としたインターンシップ型の演習「実践農学」は、開始から2年が経とうとしていますが、昨年度の結果を生かしつつ、今年度も工夫した計画・運営を進めてきました。

また、昨年度10月、地域の創造的発展に繋がる研究と人材育成を行う拠点となることを目指し、兵庫県篠山市に設置された「神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ」は開所2年目を迎えました。引き続き、本拠点では農村地域の課題解決と発展に向けた研究や人材育成に取り組んでおります。その人材育成の一環として、農村地域での起業・継業を目指す人のためのビジネススクールを開講しています。

そのほか、テキスト作成や地域志向科目の充実にに向けた取組を進めてきました。

3. 活動詳細

1 地域人材育成

【大学生対象】

農学部が実施する教育プログラムにおいて、地域の創造的発展に寄与できる人材育成に取り組んでいます。とくに、現場での実践活動を伴う科目の内容を充実させるよう取り組みを進めてきました。また、ウェブページやSNSを通じて、これらの活動の情報発信を行いました。

実践農学入門

農村地域において、地元農家を指導員とし、農作物の栽培や、むら仕事を体験しながら、農業や農村生活の理解を深めました。

履修者数: 44名

活動地域: 兵庫県篠山市西紀中地区(里づくり振興会・農家)

実習日: 平成29年5月20日、6月17日、7月8日、10月14日、12月9日、平成30年1月20日

校内学習日: 平成29年4月21日、7月21日、12月15日



実践農学入門の実習

実践農学

農林業、農村の抱える課題解決を目指した5つのプロジェクトへ参加し、実践活動を行いました。

履修者数: 28名(調査型: 14名、インターンシップ型: 14名)

活動地域: 兵庫県篠山市、神戸市

プロジェクト概要(プロジェクト名、活動先、演習日):

1. 森づくり(篠山市、神戸市)

演習日: 平成29年5月27-28日、10月7日、平成30年1月6-7日

2. 地域の魅力発見マップづくり(篠山市・大芋地区)

演習日: 平成29年6月10-11日、8月19-20日、11月4-5日

3. 準・協力隊員活動(篠山市・地域おこし協力隊)

演習日: 平成29年5月21日、6月10-11日、7月29日、9月24日、11月12日

4. 在来種の茶の利活用(篠山市・後川上の西生産組合女性部)

演習日: 平成29年5月27日、7月29-30日、10月28-29日、11月26日

5. 特産品メニュー開発に向けた調査(篠山市・JA丹波ささやま)

演習日: 平成29年5月27日、8月17-18日、9月15日、10月7日、10月21日



実践農学の演習

実践農学の交流会の開催

授業で得た学びを、各グループ間で共有することを目的とし、活動の概要、発見やそこから考えたこと、苦労や工夫したこと等を報告し合う交流会を開催しました。どのグループも篠山市で活動を行っており、学生からは、各々のグループの提案を連携させると面白い取組に発展しそうだという意見も聞かれました。

日時: 平成30年1月20日 9:45-12:00

場所: 四季の森生涯学習センター(兵庫県篠山市)

参加者数: 32名(履修者、演習受入先、教職員等)



実践農学の交流会

地域連携フォーラムの開催

実践農学入門や実践農学の履修者および学生団体の1年間の活動成果を、受入先である篠山市の地域の方々や神戸大学教職員に発表することを目的としたフォーラムを開催しました。

日時: 平成30年1月20日 13:30-18:30

場所: 四季の森生涯学習センター(兵庫県篠山市)

参加者数: 約130名(履修者、学生活動団体、実習受入先、教職員等)



地域連携フォーラム

地域活動支援

地域と連携しながら進めている学生の研究やプロジェクト、学生団体(6団体)による活動に対し、その取組内容が充実するよう、相談対応、広報協力、活動発表アドバイス、情報提供、物品貸出等の支援を行いました。兵庫県篠山市で活動する学生団体に限ると、平成29年は、延べ人数で1500名以上の活動数が報告されました(平成29年1月1日-12月31日)。



地域活動支援

【学生・一般対象】

平成28年10月、連携協定を締結している篠山市において、神戸大学・篠山市農村イノベーションラボを開設し、農村地域の課題解決と発展に向けた、現場発のイノベーション、地域に根差した教育と研究、地域の人材育成に取り組む体制を整えてきました。農村イノベーションラボでは、様々な事業やイベントを企画・運営していますが、大学生に限定されない、幅広い層の方とともに地域づくりに取り組む場を形成しつつあります。また、ウェブページやSNSを通じて、これらの活動の情報発信を随時行いました。

篠山イノベーションスクールの企画運営支援

農村イノベーションラボでは、農村で新しい価値を生みだしことをつくる人のための人材育成プログラムが開講されています。その企画運営に協力しました(詳細は「雇用創出に関する取組」を参照)。

イベント企画運営

さまざまな立場の人びとのネットワークづくりを促進するため、各種ワークショップやセミナー等を行っています。

(代表的なイベント)

「Rural Learning Networkセミナー」

開催日: 1月28日、8月5日、9月6日、10月19日、12月6日、12月16日(平成29年・計6回)



篠山イノベーションスクールの授業風景



ラボでのイベント案内

2 テキスト作成準備

農山村地域の生活や農業、それらと密接な関係にある自然環境の現状や変化の理解に繋がるテキストの刊行を目指し、調整業務を行いました。

・自然と環境領域の執筆者会議の開催(平成29年7月2日)

・編集関係者による打ち合わせ(平成29年11月10日)

3 その他

領域内の取り組みの充実に繋がるよう下記の会議開催をサポートしました。

・篠山市と神戸大学の連携事業に関する会議の実施(平成29年5月11日、6月1日、7月13日、8月17日、9月14日、10月26日、11月30日、12月25日、平成30年2月1日 於篠山市)

・篠山市・神戸大学連携推進協議会議の開催(平成29年10月18日 於神戸大学)

子育て高齢化対策領域

1. 領域が目指す教育プログラム、人材育成

兵庫県は人口減少・高齢化の加速が深刻化しており、子育て支援や高齢化問題への対策は急務です。支援を充実させ、若い世代が安心して出産・子育てをできる社会を形成し地域の若返りを図るとともに、健康寿命の延伸による高齢者の社会参画を促す必要があります。本領域では、看護師・理学療法士・作業療法士の医療専門職養成課程を有する3大学(神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学)が連携し、地域課題を解決できる医療専門職者の育成および人材の地元定着に取り組みます。

2. 平成29年度活動概況

3大学間で大学連携を進めるため、代表教員が集まり、意見交換を行いました。平成29年10月14日には、昨年度に引き続き第2回目の3大学合同報告会を開催し、各大学で取り組んでいる地域活動やそこから得た知見や課題の共有を図りました。

神戸大学では、地域フィールド活動の1つとして作業療法学専攻の学生を対象とした「作業療法フィールド実習」がスタートしました。さらに、平成30年度から理学療法学専攻学生を対象として開講する「理学療法地域医療実習」にさきがけ、大学院生を中心に名谷地区の高齢者を対象とした健康測定会を実施しました。

また、子育て支援や高齢者福祉について基礎知識を養うことを目的に、3大学がこれまで培ってきた地域での教育・研究の成果を集め、年度末に「子育て支援と高齢者福祉」を刊行しました。

3. 活動詳細

1 大学連携・情報発信

① 3大学 学生情報交換会

3大学合同報告会の企画を学生主体で進めるため、各大学の代表学生による事前の情報交換会を実施しました。7月4日には神戸大学と神戸市看護大学、7月7日には神戸大学と園田学園女子大学の代表学生での情報交換会の場を設け、それぞれの大学での活動の紹介や、3大学合同報告会の内容の検討を行いました。

開催日 平成29年7月4日(火)・平成29年7月7日(金)
場所 神戸市看護大学・園田学園女子大学 参加人数 5名・4名



情報交換会
(神戸大学・園田学園女子大学)



情報交換会
(神戸大学・神戸市看護大学)

② COC+子育て高齢化対策領域 3大学合同報告会

3大学それぞれで行っている地域活動の情報共有を図るため、COC+子育て高齢化対策領域の第2回目の合同報告会を開催しました。

領域コーディネーターから兵庫県の現状を踏まえて地方創生に関する説明を行った後、各大学の地域活動の取り組みについて代表学生から報告しました。

後半は、ポスターで活動紹介をしながら、参加者同士の意見交換を行いました。

開催日 平成29年10月14日(土) 場所 神戸市生田文化会館 参加人数 120名



合同報告会学生発表の様子

プログラム

概要説明 知っていますか?兵庫県～地域創生って何だろう～

- 報告① 地域活動で学んだこと
 - 報告② 地域活動での学びを実習でどう活かしたか
 - 報告③ 食育SATシステムを用いたライフステージ別地域住民に対する適切な食事選択の構築指導について
 - 報告④ 母子保健における保健師の役割
—様々な職種がいる中でなぜ保健師が必要なのか—
 - 報告⑤ Activity Area of Occupational Therapist
 - 報告⑥ 産後女性に対する取り組み—産後のマイナートラブルについて
- ポスター掲示・情報交換会



ポスター掲示の様子

③ 神戸大学保健学研究科地域連携センター報告会

神戸大学大学院保健学研究科地域連携センターでの地域連携事業を学内外に広く知っていただくため、本報告会を開催し、「子育て支援」「高齢化対策」に関する様々な活動を報告しました。

開催日 平成30年1月27日(土) 場所 神戸市教育会館 参加人数 50名



地域連携センター報告会



プログラム

- 報告① 地域高齢者・認知症の方とご家族への支援事業;今年度の活動
- 報告② COC+事業子育て高齢化対策領域 事業報告
- 報告③ 児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所巡回支援事業について—神戸市発達障害支援センターとの連携事業—
- 報告④ 脳性麻痺のある子どもの日常生活活動
- 報告⑤ 自閉症スペクトラム症のある子どもの作業遂行能力
- 報告⑥ 研究を通じた地域在住の前世代との関わり—地域密着型研究室を目指して—

2 地域フィールド実習・測定会の実施

神戸大学では、学生の地域理解を深めるため、キャンパス周辺での実習の開講と開講準備を行っています。本年度は「作業療法フィールド実習」を開講し、来年度からは「理学療法地域医療実習」の開講を予定しています。

① 作業療法フィールド実習

地域の保健医療福祉システムと作業療法士の役割への理解を深めることを目的に、地域の施設見学を中心としたフィールド実習を開講しました。

この実習で得た知見を、代表学生が3大学合同報告会で報告しました。

開講時期 平成29年6月19日～6月29日
見学先例 神戸市北須磨団地、神戸市青陽須磨支援学校 履修人数 16名



実習内容報告時の様子

② 地域在住高齢者を対象とした健康測定会

来年度から開講予定の理学療法地域医療実習にさきがけ、大学院生を中心に地域在住高齢者を対象に健康測定会を実施しました。身体機能などを測定し、参加者へ結果の説明を行いました。

開講時期 平成29年6月19日～6月29日 参加者 100名
場所 神戸市須磨区(菅の台、多井畑、多井畑東町、花谷、南落合地区)



地域測定会の様子



3 「子育て支援と高齢者福祉」の刊行

少子高齢化社会に対応した地域支援を担い、地域で生活する多様な住民の健康や子育て環境づくりについて、学生や市民が学ぶことができるよう、地域づくりの基礎知識シリーズの第2弾として、「子育て支援と高齢者福祉」を平成30年3月に刊行しました。

4 会議の開催

保健学研究科地域連携センター内および神戸市看護大学、園田学園女子大学の3大学でCOC+事業を円滑に進めるため、打ち合わせの場を設けました。その他、各活動の円滑な推進と情報共有のため、学内および学外各所との打ち合わせを実施しました。

① 神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学 3大学間会議

開催日 平成29年5月10日、7月26日



大学間会議の様子

② 神戸大学保健学研究科地域連携センター運営委員会

開催日 平成29年3月21日、5月17日、8月2日、10月18日、12月6日、平成30年2月14日

③ COC+事業に関連した打ち合わせ

開催日 平成29年4月25日(遠隔)、5月23日(遠隔)、6月2日、7月3日(遠隔)、8月21日、10月19日、10月27日、12月5日、平成30年1月11日、1月17日



地域活動の打ち合わせの様子

安心安全な地域社会領域

1. 領域が目指す教育プログラム、人材育成

阪神・淡路大震災から20年以上が経過し、災害を考慮したまちづくりが各地で行われつつあります。多くの死傷者、行方不明者を出した東日本大震災では、仮設住宅での生活をされている方々が多くおられます。将来起こりうる南海トラフ巨大地震や、台風や豪雨といった様々な災害に対して、災害への対応力を身につけ、より良い復興のあり方を探る必要があります。本領域は、災害の性質を知り、ボランティアやまちづくりの実践的手法を身につけ、防災意識を地域で啓発できる人材を育成します。また本領域は、およそ20年間以上にわたり災害研究調査を行ってきた都市安全研究センターと協働して、事業を進めます。

2. 平成29年度活動概況

本領域では、都市安全研究センターの活動と関連させながら、地域人材育成を中心とする事業を展開してきました。具体的には、学生や市民、支援者の防災・減災の意識を高めるための機会創出として、一般向け講演会、学内教職員有志のメンバーによるワークショップを行いました。災害研究・調査の現状と取組を共有し、減災・防災に向けた今後の課題を共有しました。

また、震災経験と地域課題の被災地間における共有と、災害を体験していない方に教訓を伝えていくため、兵庫と熊本、兵庫と東北地方を対象にしたイベントを開催しました。

さらに、災害に強い地域づくりを総合的・持続的に行うための地域社会の仕組みを地域で協力して構築していくため、以上の活動を基本単位としてテキスト作成に取り組みました。

3. 活動詳細

1 防災・減災の意識を高めるための機会創出にかかる支援

神戸大学都市安全研究センターRCUSSオープンゼミナール

阪神・淡路大震災以降、都市安全研究センターが継続運営してきた一般向けの講演会を共同開催しました。講演テーマは地震、豪雨、火災や歴史資料保存など、多岐にわたりました。1月20日においては、南海トラフ地震の断層予知検討について報告がなされ、観測やAI技術を活用した予知技術の展望について広く議論が展開されました。

開催日 平成29年4月15日、5月13日、6月10日、7月15日、8月19日、 場 所 神戸市役所4号館(危機管理センター)
9月16日、10月14日、11月18日、12月9日、平成30年1月20日、2月10日、3月17日 参加人数 約640名(4~3月)



オープンゼミナール

都市安全研究センターオープンゼミナールのアウトリーチ活動

兵庫へ新たな防災・減災の知見を得るため、復興まちづくりに取り組む東日本大震災の被災地宮城県気仙沼市においてオープンゼミナール「地域の防災を考える」を開催し活発な議論が展開されました。さらに地元自治会を中心に意見交換会を3か所で開催し、神戸大学の阪神・淡路大震災復興からの知見を共有する「伝え・学ぶ」事業を実施しました。

開催日 平成30年3月3日、3月4日、3月5日 参加人数 約150名(神戸大学教職員、学生、協力団体、住民)



オープンゼミナール
「地域の防災を考える」

2 被災地間を繋いで、震災経験と地域課題の共有・継承にかかる支援

震災復興支援プラットフォームのワークショップ

東日本大震災後、学内教職員有志で開催してきた震災復興プラットフォームのメンバーによるワークショップに参加運営しました。11月1日においては、街の復元模型制作による、福島県原発避難自治体の文化復興支援の取り組みが報告されました。質疑応答は模型の实物を継続して展示、保管していく難しさ等、議論が活発に行われました。

開催日 平成29年11月1日、平成30年3月6日 場 所 神戸大学 出席者 30名



震災復興支援プラットフォームの
ワークショップ

鶴住居の未来フォーラム

地域住民を交えて地域の現状について意見交換を行い、インフラ整備が進んでいる一方で商業施設や避難経路の少なさなどの課題を共有しました。フォーラムの内容を冊子にまとめ、フォーラムに参加できなかった地域の方とも内容を共有し、今後の地域づくりの参考にして頂きたいと思っております。

開催日 平成29年7月31日 場 所 鶴住居地区生活応援センター 参加人数 約40名



鶴住居の未来フォーラムでの
子供対象防災ジャンボかるた大会

3 地域の安心・安全に向けた大学と市民連携推進 「伝えて、学ぶ」の取組

- ① 阪神・淡路大震災の被害・復興経験を再検証し、防災・減災に役立てています。
- ② 阪神・淡路大震災後に発生した被災地から学び、新たな知見を得ています。
- ③ 研究の知見を教育、実践活動に活かし、兵庫県内、国内外へ伝えていきます。

兵庫の防災・地域連携フォーラム「阪神・淡路大震災の経験を熊本地震被災者へ伝える」を開催

新たな防災・復興の知見を得るため、断層型地震の復興まちづくりに取り組む熊本の被災者を兵庫県へ招き学生、市民とともに「伝え・学ぶ」事業を実施しました。都市安全研究センターオープンゼミナールの講演では熊本地震被災後の避難所運営、仮設住宅への移行、コミュニティ形成について積極的な議論がなされました。兵庫県内の断層フィールドワーク、災害語り部からの学び、阪神・淡路大震災で被害を受けた神戸市長田区、淡路市(旧北淡町)での住民交流を通じて、地域に根付いた防災・減災活動を学び、相互に共有する機会となりました。

開催日 平成30年2月9日、2月10日、2月11日 参加人数 約200名(神戸大学教職員、院生、協力団体、住民、公募市民)



- ① 人と防災未来センター見学/災害資料の保存・語り部講話
- ② 神戸西ロータリークラブ卓話・交流
- ③ 神戸市長田区での復興まちづくり住民交流/神戸市震災アプリでの学び
- ④ 断層フィールドワーク ~ 新神戸・布引に六甲変動を探る~
- ⑤ 神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナール講演
- ⑥ 淡路市(旧北淡町)野島断層保存館の見学/復興まちづくり住民交流



新たな地域連携活動

兵庫県の代表的なニュータウン「明舞団地」において、防災・減災の活動を始めます。「明舞再生塾」(住民、NPO、大学関係者、兵庫県住宅政策課、兵庫県住宅供給公社)に加わり、学生、地域とともに取組を進めていきます。



4 ホームページ、メディアでの情報発信

都市安全研究センターのホームページではオープンゼミナール紹介、各講演のまとめを掲載しています。COC+事業についてのページを特設し、Facebookで発信しています。

2月のフォーラムはNHK神戸、サンテレビのニュースで放映、神戸新聞紙面へ告知記事と事業実施記事として3回掲載、3月の「伝え・学ぶ」事業はNHK東北のニュース放映、三陸新報等へ記事掲載されました。これらの情報発信は広く市民参加に繋がっています。

5 テキスト作成に向けて

執筆依頼を行い(～平成29年7月)、編集関係者による打ち合わせ(平成29年12月20日、平成30年2月19日)を行いました。刊行に向けて執筆者との調整を進めていきます。

イノベーション領域

1. 領域が目指す教育プログラム、人材育成

人口減少社会の到来、超高齢化という課題の中で、地域が活力を取り戻すためには、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することが求められます。価値観が多様化し、地域課題が複雑化する中で、新たな解決策やその手法を生み出すために、従来の枠組みを超えた、産学公連携の推進によってイノベーションを創出する場作りを行います。同時に、地域における市場開拓等の事業化プロセスをデザインできるアントレプレナーシップを兼ね備えた人材の育成を進め、新たな雇用を創出します。

2. 平成29年度活動概況

昨年度までに試行してきたモデル事業をさらに拡張しました。領域が目指す人材育成を促進し、実効性を高めるために、なかでも、①キャリア教育事業、②インターンシップ事業、③人材マッチング事業の充実化を図りました。

地域に貢献できる人材育成の一環としてキャリア教育事業は、規模も内容も拡充しました。受講者数は増加し、学生の発案が商品化される等の成果が見られました。また、インターンシップ事業の一環として実施している県内中小企業の動画データベースは、学生が参加して制作した作品も加え、対象企業数が増加しています。人材マッチング事業は、対象企業の地域を拡大して継続しています。

3. 活動詳細(兵庫県立大学)

1 キャリア教育事業

兵庫県内で事業活動を営む企業や組織を招き、学生が企業や組織の活動内容とそこの生活に直接触れる様々な機会を設けています。地元でキャリアを形成する意味と魅力について理解を深めるきっかけとして、学部1年生/学部2～4年生/大学院生の3つの段階別に授業を展開しています。

① 学部1年生を対象「基礎ゼミナール」(キャリア教育の導入を図る)

学生が地元食品会社の商品パッケージ・デザインや販売方法を提案することを通じて、兵庫県内の中小企業の実態の理解を深め、地元企業に対する就業意識と実務能力(市場調査・プレゼンテーション・レポート作成など)の向上を目指す授業を展開しています。4つの企画に取り組み、パンケーキミックスを企画・開発したグループの作品が商品化されたほか、現在も実現化に向けて複数の取組が進行中です。

開催日 2017年度後期 履修者数 191名



寺尾製粉所(姫路市)による講義



新商品『八穀パンケーキミックス』



開発した清水啓介ゼミの皆さん

商品開発は、基礎ゼミナールにとどまりません。地元企業を知り、企業が抱える経営課題を学生と企業が協働して解決しようとする「Mラボ課題解決ラボ」からも新商品が生まれました。山口隆英ゼミは、家族の日(11月第3日曜)向けのイベント商品を企画し、学生も販売実習として店頭に立ちました。



鍵庄(明石市)での店頭販売実習

② 学部2～4年生を対象「地域キャリア論」(地域でのキャリアを考える)

「地域キャリア論」は、兵庫県内で活動する企業・組織から、経営者や事業責任者だけでなく一般従業員を外部講師として招き、業務内容と、そこで実際に働く人々のリアルな生活を知る機会となりました。多種多様な仕事や生き方があることを認識し、都市圏ではなく、地域(たとえば兵庫県)で仕事に就き、生活するキャリア・パスを自身の進路のひとつとして考慮できるようになることが期待されます。昨年に比べて増加した受講生の出席率は高く、課されたレポートには、「思い込んでいた内容とは異なる仕事だった」「企業名ではなく生活スタイルから就職を考えてみたい」といった声が多く見られました。

開催日 2017年度後期 参加企業・組織数 10 履修者数 133名

「地域キャリア論II」は、兵庫県内の企業経営者に対してインタビューを行い、地域企業の魅力を学生の視点から見出す新しい試みとして開講しました。詳しくは、「地元定着に関する取組」特集ページをご覧ください。

開催日 2017年度後期 参加企業数 6 履修者数 29名

② 大学院生を対象「実践リーダーシップII」(地域の経営者のキャリアを考える)

地元企業の経営者が登壇するオムニバス形式の授業です。金融、製造、教育といった業種の経営者による講義やグループ・ディスカッションを通じて、経営の実態を理解するとともに、地域で経営者がキャリアを形成する意味と魅力について学びました。

学生からは、「目から鱗の授業だった」「リーダーには様々な形がある」「自分自身の役割や目指すものが明確になった」「経営者の舵取りに貢献できる中小企業診断士を目指したい」等の感想が聞かれました。

開催日 2017年8月～10月 参加企業・組織数 8 履修者数 16名



講義室はいつも満員です

2 インターンシップ事業

兵庫県内には業界を牽引する優良な中小企業が多くあり、学生がインターンシップを通じて、企業の沿革、経営理念・経営方針・経営者の志を知ることで、県内の中小企業に対する就業意識のイノベーションを創発することを目指しています。そのきっかけとするために、昨年に引き続き、県内企業8社の経営者と従業員の姿を紹介する動画を作成しています。今年は、本学の卒業生が語る場面を増やすことで親しみやすさを追求し、業務内容に加えて、日々の暮らしの観点を加えています。

参加企業数 8

3 人材マッチング事業

理系の学生を対象に兵庫県内のものづくり企業の工場見学を実施し、産学公連携の組織・団体や関連企業との人材マッチングを行っています。技術革新によるイノベーションを実際に体感することで、学生の研究意識と県内企業に対する就業意識の変革につなげることを目指しました。学生は、「実際に工場や研究・開発される場を見て、具体的にイメージできるようになった」「普段聞けないようなことを聞かせていただき有意義だった」「オフィスを見て、将来自分が働いている姿が具体的に変わった」「素晴らしい環境が保たれ、化学会社とは思えなかった」といった感想を述べていました。

開催日 2017年度後期 参加企業数 10 参加学生数 77名



ヘルメットを準備しての事前講義

地元定着に向けた活動

なりわいカフェ

1.活動の目的、活動概況

神戸大学キャリアセンターの学生ボランティア支援室では、課外活動のなかでもボランティア、社会貢献活動への参加を通じて、地域課題の問題解決能力と実践力を有する人材の育成とキャリア形成に取り組んでいます。なりわいカフェは、深く多面的な地域理解を通じ地域に貢献する実践的人材の育成のための先進的事例を学ぶセミナーとして実施しています。また、様々な仕事を通じて、学生のボランティアと社会貢献活動を質的に高度化するとともに、学生の学びを深め地域のニーズにより適合した課題解決へと結びつけるために、地域アドボカシーセミナーを実施しました。

2.活動詳細

1 なりわいカフェ

「なりわいカフェ」では、「はたらくことは生きること」をコンセプトとして単にどこに就職するのではなく、各方面のゲスト講演を聴講し、そもそも「はたらくとはどういうことか」について多面的に考え、自分らしく生きることについてセミナーを開催しました。平成30年1月15日には、「共に生きる～ボランティア活動を通じて得られたもの～」をテーマに、講師のこれまでのボランティア活動から、仲間や被災地の住民など、多種多様な考えを持った人々との交流を通じて自己実現に向けた経験を伺いました。働くことや生きることとボランティア活動の繋がりを深く考える機会となりました。平成30年2月18日には、「企業人・生活人・地域人」～自分らしく生きること考える～」をテーマに、多彩なゲストにご登壇いただきました。講師からは変動の大きな社会のなかで人が様々な適応しながらそれぞれに担う役割を考え、人生という長いスパンで地域で生きる視点を持つことの必要性を伺いました。参加者がそれぞれに地域人の役割と自分のキャリア観を繋げる機会となりました。



1/15 「共に生きる」～ボランティア活動を通じて得られたもの～ 参加者/22名



2/18 「企業人・生活人・地域人」～自分らしく生きること考える～ 参加者/30名

2 地域アドボカシーセミナー

地域と関わりながら生きていくには、考えるべき様々な課題があります。平成30年1月24日に開催した「『生命を伝えるしごと』～殺処分のない社会をめざして～」では、フォトジャーナリストという仕事を通じて見えた、動物殺処分の現状や取り組みに関して伺いました。取り組みを広げるだけでなく、市民一人一人がどう責任をもって共に暮らすのかというところまで掘り下げる機会となりました。また同時に写真も展示し、殺処分の現状とメッセージを広く伝えました。平成30年2月8日に開催した「地域にかかわるしごと」では、まちづくりの支援という仕事を通じて、単に被災地の復興状況を伺うだけでなく、地域の役割や参加について知ったり、課題を通じてこれからの地域維持・運営を想像し、我々自身も地域の一員であるという認識を得ることができました。



1/24 生命を伝えるしごと 参加者/31名



2/8 地域にかかわるしごと 参加者/20名

地方が面白くなる大学ゼミバスツアー ～豊岡編～

地域の魅力や可能性を学生達に直接体感してもらおうと、地方で活躍する企業を訪問する『地方が面白くなる大学ゼミバスツアー』を平成29年9月29日(金)に実施しました。向かった先は、兵庫県北東部に位置する豊岡市。神戸大学経営学部/南ゼミ、兵庫県立大学経営学部/山口ゼミ・西岡ゼミの学生20名が参加しました。

当日、訪問したのは、豊岡市を代表する産業の観光業として「西村屋ホテル招月庭」と地場産業の靴産業として「(株)由利」の2社と地方創生を行っている「豊岡市役所」です。(株)西村屋では、まち全体を一つの温泉旅館と捉えた観光地経営や経営戦略などについてお話を伺いました。「由利」では、柳行李から発展してきた「靴産業」の歴史とともに、会社の経営戦略についてお話を伺い、工場内の見学もさせていただきました。その後、市役所で、「なぜ人は減るのか?」ということから発想する人を増やす活動についてのお話をお聞きし、目指すは、「小さな世界都市(Local&Global City)」の意気込みをお伺いしました。

学生達は、市役所での振り返りを行い、「まだまだ地方にも多くの魅力、力があると再確認したツアー」「地方を考えるととても良いきっかけになった」と語る一方、「地方の人口減少問題は楽観できないことだと認識させられ、この問題に対して当事者意識が芽生えた」などの感想を述べました。ツアー後には、それぞれがレポートを作成し、その一部をまとめた冊子を発行しました。なお、参加者全員のレポートは、ウェブサイト上で公開されています。

(<http://m-kobe.com/special/>)



西村屋で経営戦略を伺う



由利での工場内見学



豊岡市の地方創生の取組について

県内企業の紹介動画制作

兵庫県内の中小企業を学生が知る機会を作るために、昨年度より、企業紹介動画を制作し、データベース化しています。若者と県内中小企業とのネットワークを構築し、中小企業における若年者雇用創出を実現することを目的としています。本年度からは、大学院生と学部生が兵庫県内の企業に対してインタビューを行い、地域企業の魅力を学生の視点から見出す新しい試みに取り組んでいます。制作した動画は、兵庫県立大学COC+ホームページ(<http://u-hyogo-cocplus.net/companies/>)ほか、YouTubeでも公開しています。

学生による動画制作は「コンサルティングプロジェクト」の一環として、MBA(経営学修士)専攻の大学院生が最初に挑戦しました。企業に対して、事前にアンケート調査を行い、動画で紹介するべき内容を吟味します。実際に企業を訪問し、映像として相応しい場面を探りながら、出演者との打合せを進めます。このとき、社内秘の情報にも気を付けなければなりません。プロ用の機材を使用して撮影した後は、編集作業に取り掛かります。動画の割り付け、テロップの挿入といった作業を経て完成です。

開催日 2017年度前期 参加企業数 2 履修者数 6名

続いて、「地域キャリア論II」では、学部生が動画制作に挑戦しました。経営者の講演やインタビューの方法を座学で学びつつ、映像制作については、神戸芸術工科大学の専門家からの指導を受けました。今回は、インタビューの様子をスマートフォンを中心に撮影し、身近な機材を使った制作方法を模索しました。

開催日 2017年後期 参加企業数 6 履修者数 29名

参加した学生からは、「出身地なのに知らない企業だった」「自分が食べているものを扱っていて驚いた」「計画的に物事を進める重要性に気付いた」「映像制作の楽しさを体験できた」といった声が聞かれました。



事前準備



撮影風景



編集作業

神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ

1. 農村イノベーションラボについて

創造と人材育成の研究交流拠点として、2016年10月にJR篠山口駅構内に「神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ」が開設されました。ここでは、特に、若者の起業・継業支援や、移住・定住促進を目的とした事業に重点が置かれています。その具体的なプログラムの一つとして「篠山イノベーターズスクール」が開講しており、総勢55名が新しい地域ビジネスの創出に挑戦しています。

2. 農村イノベーションラボにおける取組

農村イノベーションラボでは、地域に根ざした教育と研究、地域の人材育成を目指し、大きく3つ、「地域創造研究」、「地域人材育成」、「情報発信・活動支援」に取り組んでいます。

1 地域創造研究

農村地域の課題を解決し、新しい価値を生み出すような研究を推進します。大学と地域の人や資源のマッチング、共同研究のコーディネートの他、基盤的な調査研究からアクションリサーチといわれる実験的な研究まで幅広く実施します。

今年度は、篠山市内において大学研究者により「獣被害」や「規格外農産物」、「高付加価値農業」といった計14のテーマで、また、大学生により2つのテーマで調査・研究が実施され、現場での取組を支援しました。



地域創造研究

2 地域人材育成

篠山や農山村地域を舞台に活躍する実践者たち、地域の発展に貢献しているリーダーたちの学びや挑戦、成長を促します。「食農コープ教育（大学生向け）」や「篠山イノベーターズスクール」など、地域に根ざした実践的な学習プログラムを企画支援しています。その他、篠山市では神戸大学との地域連携協定に基づき、地域おこし協力隊制度を独自の制度として運用しています。ここでは、篠山市における地域おこし協力隊制度の取組、および篠山イノベーターズスクールの取組を紹介します。

篠山市地域おこし協力隊

地域おこし協力隊とは、都市地域から農山村地域等の条件不利地域に生活の拠点を一定期間移し、地域協力活動を行うもので、平成21年度に総務省が創設した制度です。

篠山市では、独自の取組として隊員と地域や行政を円滑につなぐ役割としてコーディネータを配置しています。地元調整や地域での実践活動の経験がある研究員があいだに入ることによって隊員のした

いことと地域や行政の求めることをうまく接続し、双方にとってより良い活動につなげることが狙いです。また、毎週コーディネータを交えたミーティングの実施などにより、隊員間での活動内容の共有や情報交換の促進を図っています。

さらに、より多様な人材育成と事業展開によって地域の課題解決・価値創造を目指すために、現役の学生や大学院生が学業と並行して協力隊活動に従事する「学生挑戦型」、自身の専門性や得意分野を活かしながら起業を目指す「起業支援型」、そして自身の研究手法やテーマで地域課題の解決を目指す「地域研究型」の3つの活動形態を設けています。

1) 学生挑戦型

現役の大学生・大学院生が協力隊員となって自身が挑戦したいことを地域住民らと共に実践します

2) 起業支援型

起業に向けて農村地域で新しい価値を見出し、ビジネスに発展させることを目指します

3) 地域研究型

博士研究者が地域おこし協力隊員となって、自身の研究で地域課題の解決を目指します

今年度は、学生挑戦型として1名、起業支援型として5名、地域研究型として1名の計7名が観光やローカルデザイン、里山保全といったテーマで幅広く市内各地で活動しています。



篠山市地域おこし協力隊の特徴

篠山イノベーターズスクール

農村で新しい価値を生み出ししごとをつくる人のための人材育成プログラムとして開講しています。1年間のプログラムで、①地域ビジネスの実践者のもとで、現場での実際のプロジェクトを進めながら、ノウハウを実践的に学ぶ地域プロジェクト型学習(CBL)、②大学教員や実務家による地域でビジネスや活動を進める上で必要とされる基礎的な理論や考え方を学ぶセミナー(6コース/年)、③CBLの講師や相談役による起業・継業サポートから成り、個別課題に応じた地域での創業を促すことに重点が置かれています。今年度は、総勢55名が新しい地域ビジネスの創出に挑戦しています。

計59名 1期:19名(2016年10月~2017年9月)
開講テーマ:高付加価値農業、農産物流通、空き施設活用
2期:23名(2017年4月~2018年3月)
開講テーマ:里山林業、ツアー開業、商品開発
3期:17名(2017年10月~2018年9月)
開講テーマ:多角的農業経営、ローカルメディア運営



CBL およびセミナー一覧

取組みの特徴

1) 実践型人材の育成

技術やノウハウ、理念などの学びに加え、資金調達や法律面での専門的なアドバイス、地域との橋渡しなどのサポートを通じて、地域資源を活かし、新たな価値の創造を目指す実践的な人材の育成を通じて、地域での課題解決や産業振興に貢献するとともに地域での生業と雇用の創出につながる点

2) 通学型ローカルビジネススクール

都市部に近い農村地域という地の利を活かし、夕方以降の時間帯に開講することで、都市部で働くビジネスマンが仕事終わりに通うことができる点

3) 行政や地元団体との連携による職住一体支援

篠山市や地域との連携による強みを活かし、起業相談者への空き家や空き事業所、空き農地等の情報提供をワンストップで支援できる点

主な成果

すでに7名のスクール生が農業、ゲストハウス開業、カフェ開業といった分野で起業しています。また、現在33名が起業準備中であり、今後の地域での活躍が大いに期待できます。



スクール(2期)入学式の様子

3 情報発信・活動支援

さまざまな立場の人々のネットワークづくりを支援し、地域情報の共有と創造を進めます。各種ワークショップやセミナーなどを開催するとともに、地域づくり活動、政策に関するアドバイスや提言、支援をします。

今年度は、セミナーやフォーラム等のイベントを50回以上(2017年4月~12月末日時点)開催・実施しました。

主な実施イベント

① セミナー農の学び場/Rural Learning Network第20回「中山間地の耕作放棄地を解消させる新たな挑戦—マイハニーの事例から—」

開催日 平成29年9月6日

② ラボ・オープントークvol.4「Re:novation Idea Salon - 事業再生アイデア茶論“潰れかけの〇〇屋を再生させるには?”」

開催日 平成29年9月1日



セミナー(農の学び場)開催の様子

活動記録

年月日	領域	概要
H29.4.10	自然と環境	実践農学入門、実践農学 受講説明会
H29.4.10	歴史と文化	地域歴史遺産保全活用基礎論A開始(第1Q、第2Q)(月曜1限)
H29.4.14	全体	コーディネーターミーティング
H29.4.11	安心安全	阪神・淡路大震災開始(第1Q、第2Q)(火曜2限)
H29.4.15	安心安全	オープンゼミナール
H29.4.21	自然と環境	実践農学入門開始(通年)
H29.4.25	全体	コーディネーターミーティング(遠隔会議)
H29.4.26	自然と環境	実践農学開始(通年)
H29.5.10	子育て高齢化対策	大学間会議(神戸大学、神戸市看護大学、園田学園女子大学)
H29.5.13	安心安全	オープンゼミナール
H29.5.21	歴史と文化	まちづくり地域歴史遺産活用講座in朝来
H29.5.22	全体	コーディネーターミーティング
H29.5.23	全体	コーディネーターミーティング(遠隔会議)
H29.6.10	安心安全	オープンゼミナール
H29.6.16	全体	理学研究科でのFD実施
H29.6.21	全体	海事科学研究科でのFD実施
H29.6.23	全体	コーディネーターミーティング
H29.6.29	全体	第1回ひょうご神戸プラットフォーム外部評価委員会
H29.7.3	全体	コーディネーターミーティング(遠隔会議)
H29.7.5	歴史と文化	兵庫県文化遺産防災研修会
H29.7.18	全体	第3回ひょうご神戸プラットフォーム協議会
H29.7.15	安心安全	オープンゼミナール
H29.7.21	全体	コーディネーターミーティング
H29.7.22	歴史と文化	大学COC+シンポジウム「地域歴史遺産としての『営みの記憶』-災害復興の現場から-」(園田学園女子大学)
H29.7.26	子育て高齢化対策	大学間会議(神戸大学、神戸市看護大学、園田学園女子大学)
H29.8.4	全体	農学研究科でのFD実施
H29.8.19	安心安全	オープンゼミナール
H29.8.21	全体	コーディネーターミーティング
H29.8.22	全体	コーディネーターミーティング
H29.8.31	歴史と文化	地域歴史遺産活用演習(篠山市)(~9/1)
H29.9.6	全体	人文学研究科でのFD実施
H29.9.16	安心安全	オープンゼミナール
H29.9.25	全体	コーディネーターミーティング
H29.9.29	全体	地方が面白くなる大学ゼミバスツアー
H29.9.29	イノベーション	ものづくり工場見学開始
H29.10.2	全体	ひょうご神戸学開始(第3Q)(月曜5限)
H29.10.2	イノベーション	地域キャリア論I開始
H29.10.5	全体	地域社会形成基礎論開始(第3Q)(木曜5限)
H29.10.6	全体	工学研究科でのFD実施
H29.10.6	自然と環境	兵庫県農業環境論開始(後期)(金曜3限)
H29.10.6	歴史と文化	地域歴史遺産保全活用基礎論B開始(第3Q、第4Q)(金曜1限)
H29.10.9	イノベーション	地域キャリア論II開始
H29.10.12	全体	香寺ハーブガーデン取材
H29.10.13	全体	システム情報学研究科でのFD実施

年月日	領域	概要
H29.10.14	子育て高齢化対策	「子育て高齢化対策」領域シンポジウム 神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学 3大学合同報告会「プラットフォーム」
H29.10.14	安心安全	オープンゼミナール
H29.10.14-15	歴史と文化	まちづくり地域歴史遺産活用講座
H29.10.23	全体	コーディネーターミーティング
H29.11.15	全体	法学研究科でのFD実施
H29.11.15	全体	経済学研究科でのFD実施
H29.11.18	安心安全	オープンゼミナール
H29.11.19	全体	講演会「地域を豊かにする相互扶助が生まれるビジネスとは」
H29.11.27	全体	コーディネーターミーティング
H29.11.28	歴史と文化	兵庫県文化遺産防災研修会in播磨西
H29.12.4	全体	ひょうご神戸学開始(第4Q)(月曜5限)
H29.12.7	全体	地域社会形成基礎論開始(第4Q)(木曜5限)
H29.12.12	全体	コーディネーターミーティング(遠隔会議)
H29.12.19	安心安全	オープンゼミナール
H29.12.15	全体	国際文化科学研究科でのFD実施
H29.12.22	全体	第3回COC+シンポジウム「地域で育むイノベーション人材~新しい挑戦~」
H29.12.25	全体	コーディネーターミーティング
H30.1.15	全体	なりわいカフェ 「共に生きる」 ~ボランティア活動を通じて得られたもの~
H30.1.17	全体	経営学研究科でのFD実施
H30.1.17	全体	保健学研究科でのFD実施
H30.1.20	安心安全	オープンゼミナール
H30.1.20	自然と環境	篠山市・神戸大学地域連携フォーラム
H30.1.20	歴史と文化	地域づくりの基礎知識シリーズ1 「地域歴史遺産と現代社会」刊行
H30.1.24	全体	地域アドボガシーセミナー「命を伝えるしごと」
H30.1.27	子育て高齢化対策	保健学研究科地域連携センター報告会
H30.1.28	歴史と文化	歴史文化をめぐる地域連携協議会
H30.1.29	全体	コーディネーターミーティング
H30.2.8	全体	地域アドボガシーセミナー「地域にかかわるしごと」
H30.2.10	安心安全	兵庫の防災・地域連携フォーラム
H30.2.13	全体	COC+推進委員会
H30.2.16	イノベーション	社長と学生の交流会
H30.2.16	全体	人間発達環境学研究科でのFD実施
H30.2.18	全体	なりわいカフェ 「企業人」「生活人」「地域人」 -自分らしく生きることを考える-
H30.3.3	歴史と文化	まちづくり地域歴史遺産活用講座in三木市
H30.3.1	全体	コーディネーターミーティング
H30.3.5	安心安全	オープンゼミナール「地域防災を考える」
H30.3.14	子育て高齢化対策	地域づくりの基礎知識シリーズ2 「子育て支援と高齢者福祉」刊行
H30.3.17	安心安全	オープンゼミナール